

熱中症対策 事例集

業種：建設業（とび工事業・土工・コンクリート工事業）

本社所在地：神奈川県藤沢市

取材地：同上

従業員数：50～99名

概要：解体工事業、建築工事業（とび・土工工事）、塗装工事業

特に配慮している事項

総合建設業として公共工事から民間工事まで幅広い事業を行なっています。「思いやり・信頼・感謝」を企業理念とし、協力業者および社員とも家族のような密接な関係性を築き上げています。異変にいち早く気付ける関係性を活かし、熱中症を未然に防ぐ環境作りや指導に取り組んでいます。

基本的な取り組み事項

- 正確な知識と深い人間関係で万全の備え。
 - 熱中症予防指導員研修を積極的に受講し、独自に作成したポスター、教育資料を普及。
 - 従業員や下請会社の社員とは同じ建物に住み、朝晩の食事なども一緒に、家族のような付き合いなので日頃から密接なコミュニケーションがとれている。
 - 熱中症予防に関する研修の受講に励み、積み重ねた熱中症に関する知識を生かし、わずかな変化も見逃さずに適切に対処できるように備えている。
 - 人間ドックおよび健康診断の結果を確認して要所見の人については現場の仲間が注意して目を配り、少しでも異変がある場合には休ませる/午前中のみで帰宅させるなどの対応を行っている。



オリジナルポスター



教育資料:熱中症未然防止キャンペーン

1. 熱中症予防対策

(1) 作業環境管理

① WGBT 値の低減等

- 小規模な現場が多いが、可能な範囲で休憩場所の設置に努め、休憩場所には業務用扇風機や冷蔵庫を置くようにしている。例えばプレハブ休憩所を設置したり、建設中の建物の1階に設置するなど工夫しているほか、設置が難しい場合は日陰を作ったり、冷房を付けた車で休ませたりしている。
- 建設物の各フロアにはクーラーボックスを置いている。



建設物の中に休憩場所を設置



冷蔵庫の設置/塩飴常備



クーラーボックスを設置

(2) 作業管理

① 暑熱順化

- 暑熱順化する方法や暑熱順化を失わないための方法などについて、独自に資料や啓発ポスターを作成して周知している。
- せっかく獲得した暑熱順化を失ってしまわないように注意喚起を行っている。
 - しっかり入浴することやウォーキングを行うなど、暑さに体を慣らす工夫をするよう推奨。

② 水分及び塩分の摂取

- 休憩場所には、扇風機/塩飴/保冷剤/経口補水液/体温計/血圧計を会社で購入し、常備している。
- 休憩時間を見計らって、アイスや水で冷やしたタオル/凍らせたタオルを配りながら声掛けし、体調を確認している。
- ウォータージャグを各作業現場に配備している。



冷蔵庫の設置/塩飴常備



経口補水液等を会社支給で常備



凍らせたタオル等を配布

③服装等

- ファン付き作業服を配布しているが着用は好き嫌いがあるので強いてはいない。

④作業中の巡視

- 毎日4回の巡視を行い、声掛けをして会話ができるかなど、体調チェックを行なっている。従業員とは毎日一緒の仲間であり、家族のような付き合いをしているので、従業員同士の目配りが巡視強化に繋がっている。

(3) 健康管理

①日常の健康管理等（労働者の健康状態の確認、身体の状態の確認を含む）

- 毎朝、全従業員を対象にツールボックスミーティングを実施している。

(4) 労働衛生教育

- 毎夏前（令和3年は7月5日の週）の安全大会で熱中症予防のために、独自に作成した資料・ポスターで教育している。



安全大会の様子

(5) 救急処置

- 手のつり・しびれがある段階を熱中症の予兆と捉え注意している。それらの初期症状がみられる場合は、すぐに休ませて塩分・水分摂取を指示している。
- 異変がある場合は、躊躇なく救急車を呼ぶこととしている。